

○完了地区フォローアップ調査「飛騨東部第一地区」・「御浜地区」について

完了地区フォローアップ調査は、国営完了地区において水利用・排水状況、水管理、施設管理、農業状況等についての現状把握又は水田の大規模畠地化に伴う状況変化の把握を行い、水利又は施設等の利用管理上の課題を整理します。

令和元年度、「飛騨東部第一地区」及び「御浜地区」では、施設管理状況、農業状況、地元意向の調査を実施しており、令和2年度も引き続き調査を実施する予定です。

各調査地区の概要は次のとおりです。

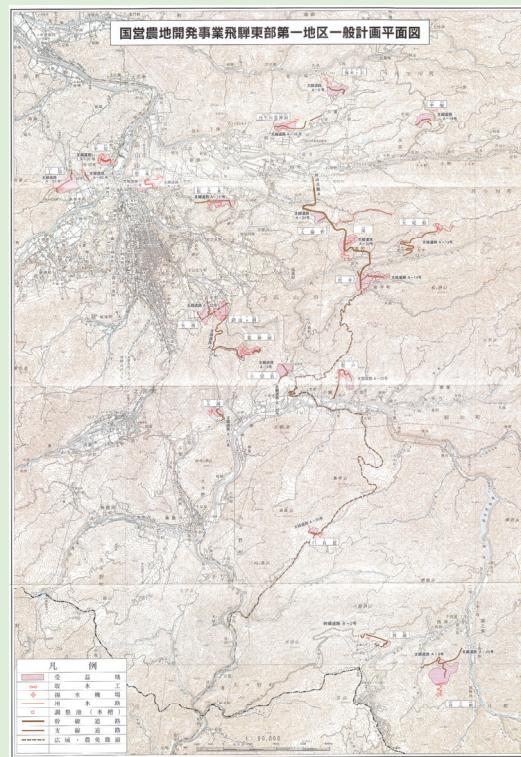
1. 飛騨東部第一地区概要

本地区は、本州の中央部の岐阜県北部の高山市に位置し、周辺は3,000m級の山岳が連なる我が国屈指の山岳地帯です。

地域農業は、冷涼な高冷地の気候を活かした高冷地野菜の導入が図られていましたが、経営規模が零細なうえ、耕地が分散していたことから安定した農業経営は困難な状況にありました。

このため、昭和63年度から平成13年度にかけて、国営農地開発事業により211haの農地造成と畠地灌漑施設や道路網の整備を行っています。

これにより、経営規模の拡大等により自然条件を活かした野菜・花き・畜産等を中心とした主産地の形成と自立経営農家の育成を図る中で地域ぐるみの豊かな農村づくりを進めています。



2. 御浜地区概要

本地区は、三重県の最南端熊野灘に面する地域で、温暖な気候に恵まれて、三重県における果樹農業の中核地域となっています。古くから柑橘栽培と水田の複合経営が行われてきたが、その規模は極めて零細でした。

この様な状況の中で、昭和45年度に農業経営の安定を図るために、果樹広域濃密生産団地形成地域に指定されると同時に、熊野地方の山腹に広がる果樹園を縦貫する広域農道七里御浜地区（通称オレンジロード）が着工されました。

これらを契機に、地元農家より経営規模の拡大と優良柑橘産地の育成を図るため、農用地造成の機運が高まり、昭和50年度から平成3年度にかけて国営農地開発事業により、果樹園331haの造成を行いました。

これにより、県内有数のミカン生産地を形成するまでに発展し、特に御浜町は「年中みかんのとれるまち」をキャッチフレーズにしています。

